

※お申込みの際は、必ず「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。

# ワールド・フィンテック革命ファンド

(為替ヘッジあり／為替ヘッジなし)

追加型投信／内外／株式



## 次世代の金融サービスが 大きく世界を変えていく。

「投資信託説明書(交付目論見書)」のご請求・お申込みは...

## 大和証券

Daiwa Securities

〈販売会社〉

商号等

大和証券株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第108号

加入協会

日本証券業協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

一般社団法人金融先物取引業協会

一般社団法人第二種金融商品取引業協会

設定・運用は...

## 大和投資信託

Daiwa Asset Management

〈委託会社〉

商号等

大和証券投資信託委託株式会社

金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第352号

加入協会

一般社団法人投資信託協会

一般社団法人日本投資顧問業協会

大和証券投資信託委託株式会社は、2020年4月1日付で、  
商号を「大和アセットマネジメント株式会社」に変更します。

ページを開く前に  
まずはこちら

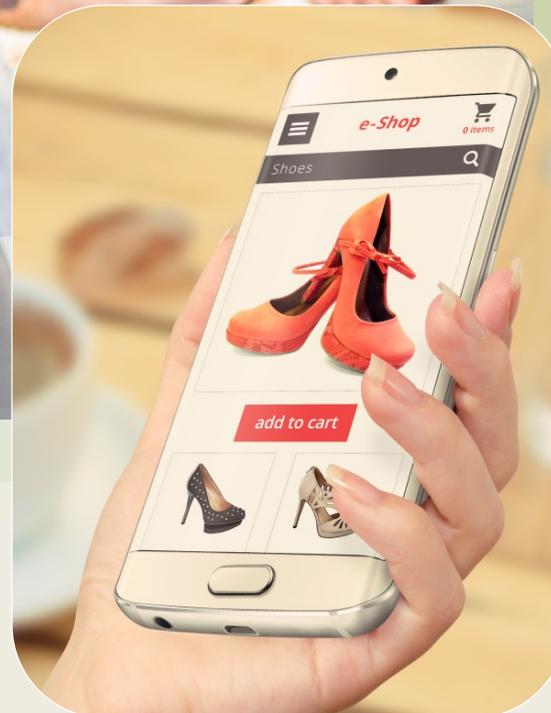


3分で納得！フィンテック

# スマートフォンの普及に伴い生活のデジタル化が進み



いつでも どこでも  
インターネットにつながる事が可能となった今



あなたが今見たい動画、今欲しい商品、今聞きたい音楽など、データ分析を通じて「あなたへのおすすめ」をアプリが提案。インターネットにつながってさえいれば、いつでもどこでも利用可能なサービスがさまざまな分野で広がっています。

# あらゆるサービスは思い立った時すぐ利用することができ

# 個々人に合わせ最適化されたものへと変化しています

パーソナライズ

# しかし、もっとも身近な存在である

## “お金”にまつわるサービス

### はどうでしょう？

オンラインで手続きが完結できる  
サービスに魅力を感じる人の割合

銀行  
サービス  
約**67%**

(2017年6月)



パーソナライズに関心がある人の割合

保険  
アドバイス  
約**64%**

資産管理  
アドバイス  
約**73%**

銀行  
アドバイス  
約**63%**

(2016年6月)

## 数多くの不便が当たり前のもので取り残され 潜在的なニーズを満たすサービスの普及はまだこれから

# 最先端のフィンテック技術を 伝統的な金融機関が取り込み始めた今

## 今までのフィンテック

テクノロジー企業による技術開発が中心で、ベンチャーキャピタルへの投資が先行

技術はあるんだけどなあ

テクノロジー企業

金融機関

自助努力で  
まかなくてきたく

このままだと  
生き残れない？

エンドユーザーの声

サービスは便利かもしれないけど、  
大切なお金を預けるのは“不安”…

## これから始まる フィンテック革命

テクノロジー企業と金融機関が協業し、  
安心感のある新たなサービスを提供

スピード感

革新的技術

テクノロジー企業

金融機関

安心感

顧客基盤

「スマートフォンが銀行に」  
その都度来店する必要がなくなり、  
送金や融資などがスマートフォンを介して可能に。



「こんな保険が今のあなたにはおすすめ」  
自分で探すのではなく、アプリ側から“今ぴったりの保険”をご提案。

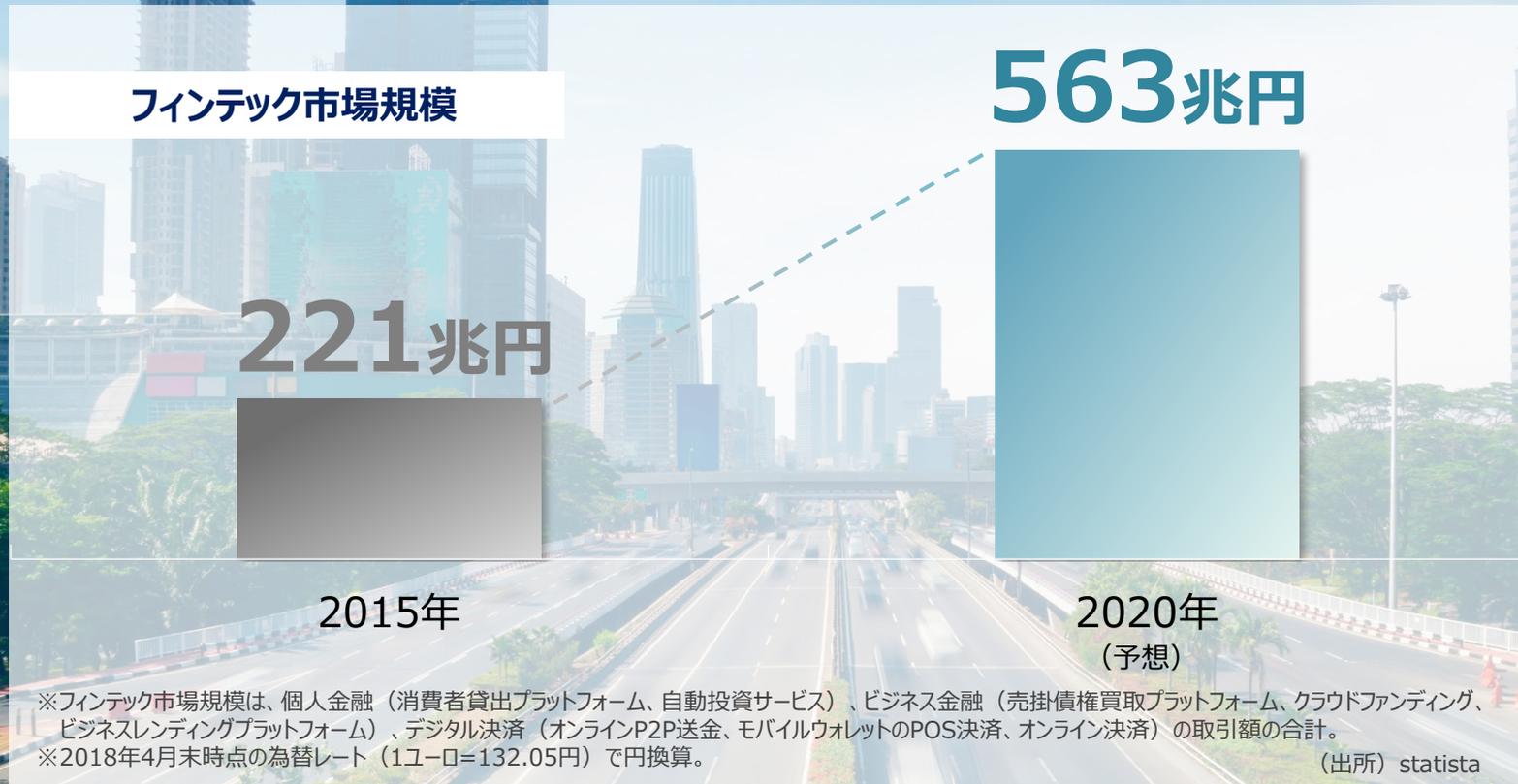


# お金にまつわるサービスの当たり前が変わります



「低コストで均一なサービスの利用が幅広い層で可能に」  
富裕層向けだったサービスが、コストを抑え利便性も向上しリニューアル。  
高度なサービスながら資産運用をより身近な存在へ。

# 人々の潜在的なニーズを捉えた “フィンテック”



**サービスの拡がりとともに  
爆発的な市場拡大が期待されます**

# ファンドのポイント



## 日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資

- ✓ フィンテックとは、金融（Finance）と技術（Technology）を組み合わせた造語で、IT技術を活用した新しい金融サービスをいいます。
- ✓ 当ファンドでは、フィンテック関連企業の中でも、特に下記3つのテーマに着目して投資を行います。

|                           |   |
|---------------------------|---|
| キャッシュレス・ビジネス              | 決済のキャッシュレス化の進展により恩恵を受ける企業                                     |
| フィンテック技術基盤                | 新しい金融サービスの技術的な基盤を提供する企業                                       |
| 次世代金融リーダー                 | 新技術の導入により市場をリードする金融機関   |
| 当ファンドにおける<br>フィンテック関連企業とは | 多岐にわたる新たなテクノロジーを通じて、保険、資産運用、融資、決済などの既存の金融サービスに変革をもたらす企業をさします。 |



## テーマ株式運用を得意とする アクサ・インベストメント・マネージャーズが運用

- ✓ アクサ・インベストメント・マネージャーズは、保険会社として世界的に有名なアクサ・グループの資産運用部門であり、数多くのテーマ型ファンドで優れた実績を有します。



## 「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのファンド

- ✓ 「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」との間でスイッチング（乗換え）を行なうことができます。  
※当ファンドにおける為替ヘッジについて、くわしくは23ページをご覧ください。

※アクサ・インベストメント・マネージャーズ（以下、アクサ IM）については17、18ページをご参照ください。



# 1 キャッシュレス・ビジネス



# 2 ファイנטック技術基盤



# 3 次世代金融リーダー

# 当ファンドが着目する3テーマ

## ① キャッシュレス・ビジネス

キャッシュレス

技術基盤

次世代金融

キャッシュレス・ビジネスとは、キャッシュレス社会の拡大により恩恵を受けるビジネスをさします。

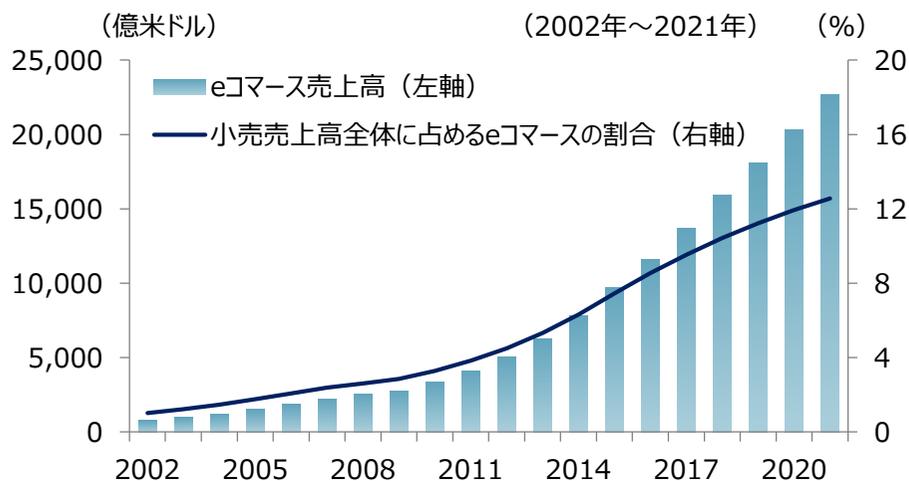
### 世界で進むキャッシュレス化

eコマースの普及等を背景に、世界中で決済のキャッシュレス化が進んでいます。キャッシュレス決済は、高い利便性により、実店舗における決済でも存在感を高めていくと考えられます。

### 恩恵を受ける注目分野

キャッシュレス化の進展により、現金に代わる決済手段となる「デジタル通貨」と決済インフラを担う「決済インフラ」を提供するビジネスは、長期的に恩恵を受けることが見込まれます。

#### 世界のeコマース市場規模



※2017年以降見直し

(出所) Euromonitor

#### 注目分野の紹介

##### デジタル通貨

交通系に代表される電子マネーやクレジットカード、仮想通貨など、物理的通貨を伴わない決済手段のことです。日本の大手金融機関も独自の仮想通貨開発に乗り出すなど、多様化が進み幅広い利用が期待されます。

##### 決済インフラ

実店舗等でキャッシュレス決済を行なうためのインフラをさします。QRコード決済、指紋決済など、多様な決済手段が普及することで決済サービスの利便性向上が期待されます。

# 当ファンドが着目する3テーマ ① キャッシュレス・ビジネス

## 《 決済インフラ 》

キャッシュレス 技術基盤 次世代金融

### 決済手段の多様化

スマートフォンを介したQRコード決済、時計・指輪などのウェアラブル端末を介した決済、そして指紋決済など、現金に代わるさまざまな決済手段があります。



### 注目ポイント

多様な決済手段を小売店などの事業者を提供できる決済インフラ企業が今後存在感を高めていくとみられます。特にさまざまな決済手段で処理される決済情報を一元管理できる決済システムを提供できることがポイントとなります。

注目銘柄



米国 / 情報技術

## ワールドペイ



### 決済処理のグローバルリーダー

- ✓ 決済処理のテクノロジーとソリューションを提供するオンライン決済サービスのグローバルリーダー。主に小売業向けに、店舗、オンライン、スマホなどの様々な媒体から各種カードでの決済を可能にする垂直統合型決済サービスを提供。
- ✓ イギリスでスタートし、その後米国企業と統合。イギリスと米国で強い基盤を持つ。イギリスでは取引の約42%を処理しており、イギリスの決済リーダーとなっている。世界146カ国でサービスを提供。

### < 株価とEPSの推移 >



株価：2013年1月初～2018年11月末  
EPS：2013年～2020年（2018年以降はブルームバーグ予想）

(出所) アクサ IM、ブルームバーグ

# 当ファンドが着目する3テーマ

## ②フィンテック技術基盤

キャッシュ  
レス

技術  
基盤

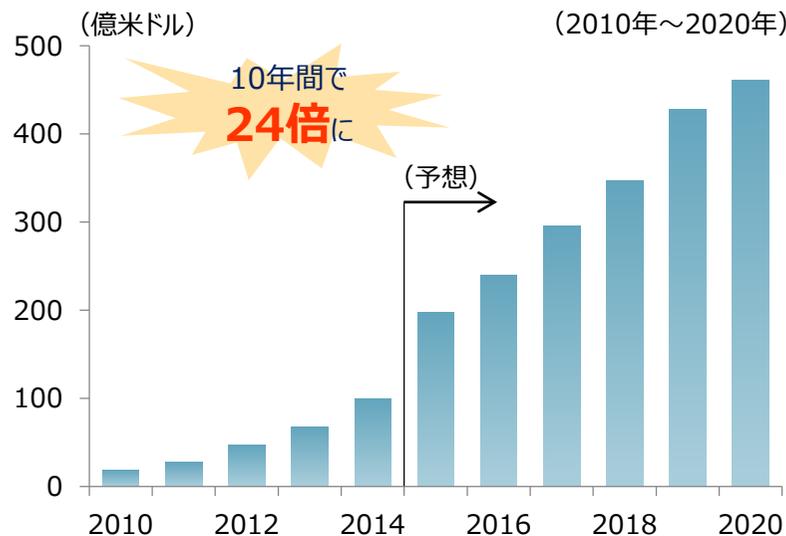
次世代  
金融

フィンテック技術基盤とは、新しい金融サービスを支える、セキュリティやブロックチェーンといった技術的な基盤をさします。

### 世界でフィンテック関連分野への投資が拡大

新たな金融サービスでは、セキュリティやブロックチェーン、ビッグデータなどのテクノロジーの活用が重要となります。世界中でフィンテックを支える技術への投資が拡大しており、新しいサービスの普及を後押しするとみられています。

世界のフィンテック関連分野に対する投資額



(出所) Market Research.com「Five Banking Innovations from Five Continents : USA, Europe, Asia, Africa, Australia」

### 計り知れない可能性を秘める注目分野

現時点において未成熟でも長期的に高成長が見込まれる高ポテンシャルの分野に着目し、各分野を牽引する可能性の高い企業に厳選投資します。

注目分野の紹介

|          |  |
|----------|--|
| セキュリティ   | 顧客情報など重要で膨大なデータを扱う企業が増えており、サイバー攻撃などの脅威から情報を守るセキュリティ対策の需要が高まっています。                      |
| ブロックチェーン | 世界中にあるコンピューターにデータを分散させることで、データの破壊・改ざん等のリスクを低下させるネットワーク上のシステムであり、「分散型台帳技術」ともいいます。       |
| ビッグデータ   | 一般的なデータ管理・処理ソフトでは扱うことが困難なほどデータ量が増えており、巨大で複雑なデータを収集・分析できる技術が求められます。                     |
| ソフトウェア   | コンピューター上でさまざまな処理を行なうプログラムのことで、フィンテックの普及には欠かせないテーマです。他の注目分野の技術革新を支える土台ともなっています。         |
| レグテック    | 規制 (Regulation) と技術 (Technology) を合わせた造語で、テクノロジーを活用することでより効果的、効率的に金融規制に対応することをめざすものです。 |

※上記注目分野以外にも投資する可能性があります。

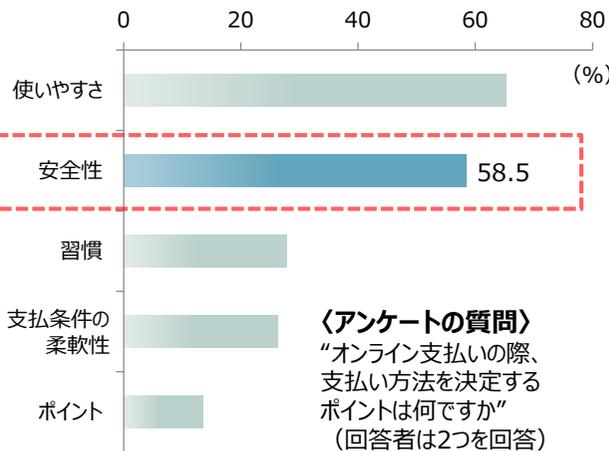
# 当ファンドが着目する3テーマ ②フィンテック技術基盤

## 《セキュリティ》

### 高まるセキュリティの重要性

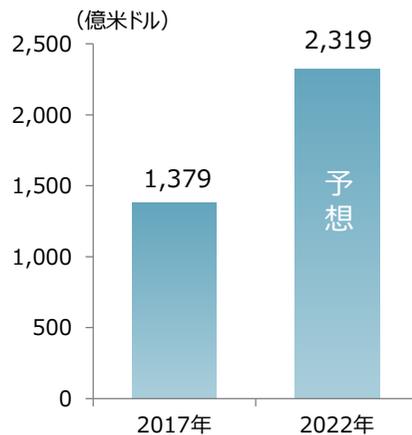
金融サービスであるフィンテックは、既存の金融機関同様に高い安全性が求められています。特にオンライン決済などの拡大に伴い情報セキュリティに対するニーズが高まっています。セキュリティ技術は、今後フィンテックがさらに普及するために欠かすことのできない技術のひとつといえます。

オンライン決済手段を選択する際に重視する点



(出所) Research Now, Exane BNP Paribas estimates

世界のセキュリティ市場規模



(出所) MarketsandMarkets

### 注目ポイント

情報技術を活用する金融サービスは、既存の金融サービス以上に多様なサイバー攻撃のリスクと対峙しているといえます。情報セキュリティ企業には、**多様なリスクに対応できる包括的なサービスを提供することが求められます。**

注目銘柄



米国 / 情報技術

## パロアルトネットワークス

フィンテックの普及に欠かせないセキュリティ企業

- ✓ コンピューター・ネットワーク用セキュリティ対策の中核となるファイアウォール大手。製品ラインナップの拡充と継続的な顧客数増加により、競合他社と比較しても速い成長が続く。**2018年の売上高の成長率は約29%、セキュリティ市場全体のペースの約3倍の伸びとなっており、今後もペースの速い成長が期待される。**
- ✓ 将来予測の立てやすい継続利用による収益（サブスクリプション）など、安定的売上比率が顧客数の増加とともに高まっている。

＜株価とEPSの推移＞



株価：2013年1月初～2018年11月末

EPS：2013年～2020年（2019年以降はブルームバーグ予想）

(出所) アクサ IM、ブルームバーグ

# 当ファンドが着目する3テーマ

## ③次世代金融リーダー

キャッシュ  
レス

技術  
基盤

次世代  
金融

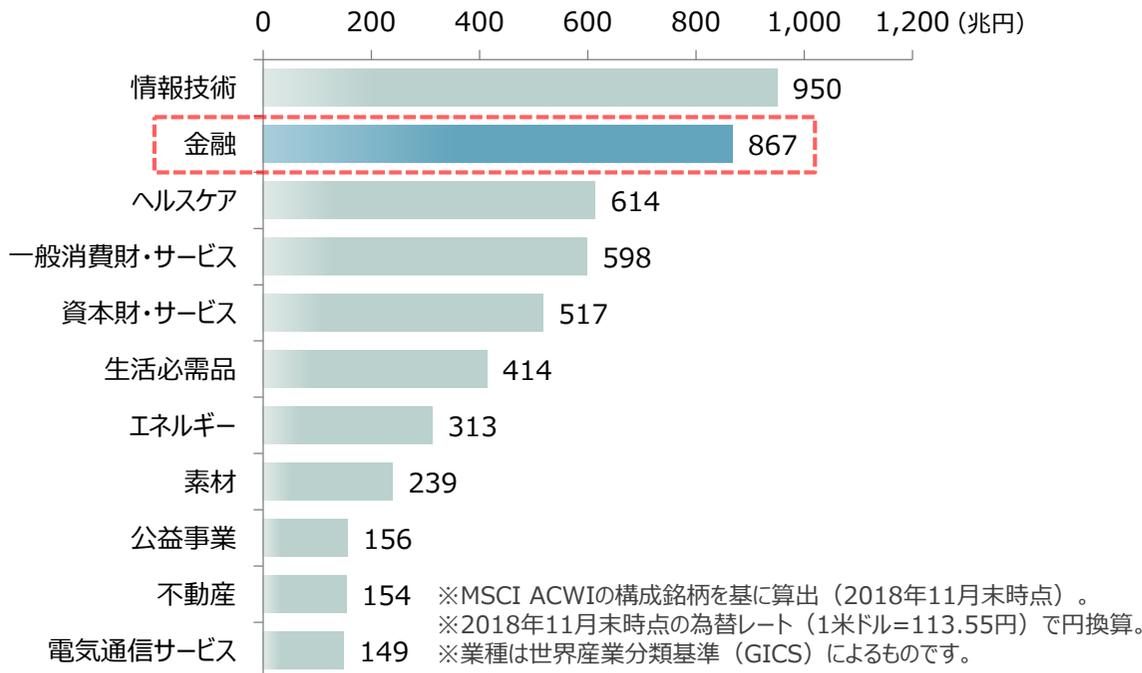
次世代金融リーダーとは、新しいサービスをいち早く導入し、市場をリードしていく金融機関をさします。

デジタル化による変化の波が金融業界にも訪れ始めた中、これからは技術を積極的に取り込みスピード感をもって変化に対応できる限られた企業が市場をリードしていくと考えられます。

### 変革期を迎える巨大産業

金融業界は、時価総額でみて世界最大級の産業のひとつです。フィンテックが生み出す新しいサービスにより、市場をリードする金融機関が、この巨大産業内の将来の勝ち組になると考えられます。

世界の業種別時価総額ランキング



### 次世代金融リーダーの特徴

リーダー企業として生き残る企業は各々が特筆すべき特徴を持っており、その一例をご紹介します。

#### 次世代型 保険

- ビッグデータ等、技術力を武器に新市場を開拓。
- 既存の顧客基盤、資本力を武器に新規サービスをいち早く導入。

#### 次世代型 バンキング

- オンライン等、利便性の高いサービスを武器に国境を越えてシェアを拡大。
- 強固な財務基盤を活用し、最新技術への投資で先行。

#### 次世代型 ウェルスマネジメント

- 運用商品の組成、販売だけでなく利便性の高いプラットフォームを提供することにより顧客を囲い込み。

（出所）MSCI Inc.、ブルームバーグ

# 当ファンドが着目する3テーマ ③次世代金融リーダー 《 次世代型保険 》

キャッシュレス 技術基盤 **次世代金融**

## フィンテックによる変化の例



### たとえば

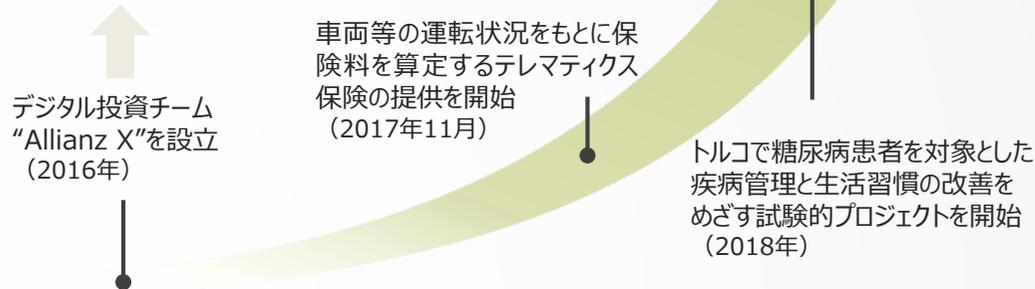
- ✓ テクノロジーの活用により、契約者の安全運転や健康管理を積極的にサポート。
- ✓ 消費者の潜在ニーズを捉えたサービスにより顧客満足度向上と保険金支払いコスト抑制を両立。

### 注目銘柄

**アリアンツ** (ドイツ)

積極的な投資により技術を取り込み、  
テレマティクス\*1保険など先進的でユニークなサービスを提供。  
他社には真似できないスピードと技術力を持つ次世代型保険の代表格。

### “InsurTech\*2”への投資を拡大 (2018年4月時点で計13社に投資)



## いち早く動き出した企業が市場をリード



株価：2013年1月初～2018年11月末  
EPS：2013年～2020年（2018年以降はブルームバーグ予想）

\*1 テレコミュニケーション（電気通信）とインフォマティクス（情報処理）を掛け合わせた造語

\*2 Insurance（保険）とTechnology（技術）を掛け合わせた造語

（出所）アクサ IM、ブルームバーグ

# 当ファンドが着目する3テーマ ③次世代金融リーダー 《次世代型バンキング》

## フィンテックによる変化の例



### たとえば

- ✓ ブロックチェーン等の新規技術の実用化に向け積極投資。
- ✓ 企業の財務管理ニーズに応えるソフトウェアを開発。

### 注目銘柄

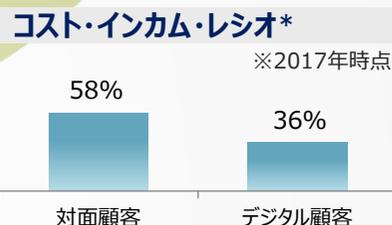
**DBSグループ** (シンガポール)

いち早くデジタル化に舵を切り、シンガポール国内でのシェアを大きく伸ばし、新興勢力の進出も防ぐ。デジタルのみで容易に国外に進出し、新たな顧客を獲得。実践をもって勝ち組となっており、今後も成長が期待できる。

## いち早く動き出した企業が市場をリード



デジタルバンキングのみで  
インドに進出 (2015年)  
→200万口座獲得



デジタル化の脅威を感じ  
経営方針を転換  
(2009年)

**“全行員を起業家に”**

マイクロソフトなどで実績を上げた  
ニール・クロス氏が最高イノベーション  
責任者に就任 (2014年)



株価：2013年1月初～2018年11月末  
EPS：2013年～2020年 (2018年以降はブルームバーグ予想)

\* 営業利益に対する営業経費の比率で、数値が低いほど収益性が高い。

(出所) アクサ IM、ブルームバーグ

# 当ファンドが着目する3テーマ ③次世代金融リーダー 《次世代型ウェルスマネジメント》

キャッシュレス 技術基盤 次世代金融

## フィンテックによる変化の例



### たとえば

- ✓ 運用資産の一元管理ツールを提供することで顧客の資産運用をサポート。
- ✓ ツールを通して蓄積されるデータを活用し、商品やサービスを向上させることで顧客の困り込みを実現。

### 注目銘柄

**フィネコバンク** (イタリア)

最先端のデジタル・プラットフォームを活用し、資産運用など幅広い金融サービスを自社のモバイルアプリケーション上で提供し、預かり資産を拡大。自動会話プログラム等のテクノロジーを活用し収益性も向上。



顧客数が120万人に (2017年)

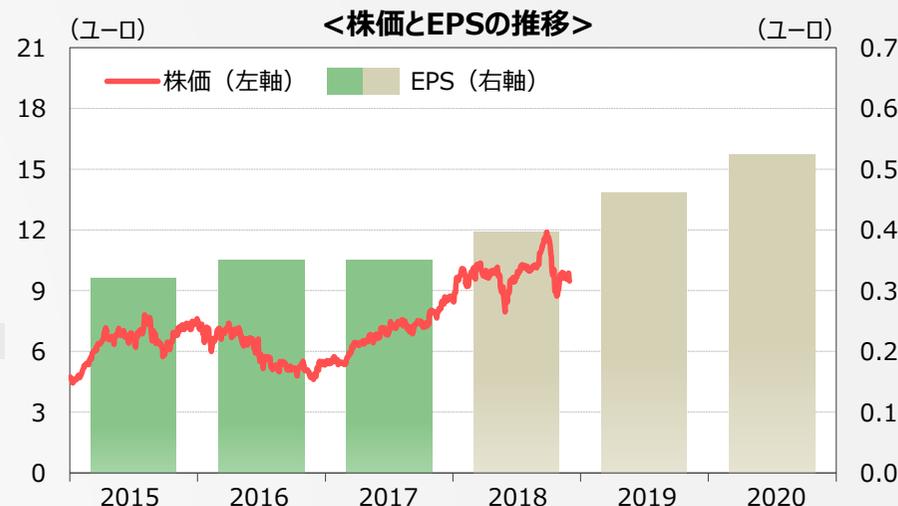
### コスト・インカム・レシオ\*



個人向けオンライントレードサービスの提供を開始 (1999年)

顧客数が25万人を突破し、欧州No.1のオンライントレーディング企業へ (2001年)

## いち早く動き出した企業が市場をリード



株価：2015年1月初～2018年11月末  
EPS：2015年～2020年 (2018年以降はブルームバーグ予想)

\* 営業利益に対する営業経費の比率で、数値が低いほど収益性が高い。

(出所) アクサ IM、ブルームバーグ

～ 運用チームのご紹介 ～

# テーマ型ファンドの運用に定評のある アクサ・インベストメント・マネージャーズが運用を担当します。

## アクサ・インベストメント・マネージャーズの強み

### 柔軟な発想を運用に取り入れる体制を確立

- ✓ 運用者同士が定期的に意見交換を行ない、お互いのアイデアを交換し合う機会を設けており、異なる分野や地域の情報や新しい発想をお互いに取り入れています。

### 長期にわたる成長テーマの発掘

- ✓ アクサ・インベストメント・マネージャーズは長期にわたり**テーマ型株式運用**に取り組んでいます。当運用チームでは、長期投資を行なう上での最良の方法は、市場全体を上回る成長が見込まれる**長期トレンドを捉える成長企業に投資**をすることであると確信しています。
- ✓ ヘルスケア、テクノロジー、バイオテックなどさまざまなテーマ型運用を長期にわたり手掛けており、日本では2015年12月より**ロボット関連ファンド**の運用を提供しています。



ポートフォリオマネージャー  
**ヴィンセント・ヴィナティール**  
が語るフィンテックの注目点を動画で！



## 当ファンドの運用プロセス

### 日本を含む世界の株式

- フィンテック分野で長期にわたり成長の可能性を有する企業群を選定
- 流動性の低い銘柄は除外

### 投資対象銘柄

- 詳細なファンダメンタル企業分析
- 主として、以下の点を考慮し、銘柄を選定
  - 中長期的な収益成長性
  - フィンテック分野における優位性
  - 新しい技術を開発または活用する能力
  - 市場をリードする商品・サービスの有無
  - 強力な経営陣 など

### 組入候補銘柄

- 主として、以下の点を考慮し、確信度に基づき組入比率を決定
  - 株価の上昇期待度や下落の余地
  - ポートフォリオ全体のリスク など

### ポートフォリオ

## アクサ・インベストメント・マネージャーズについて

- ✓ アクサ・インベストメント・マネージャーズは、**アクサ・グループ**の資産運用部門です。
- ✓ アクサ・グループは、生命保険、損害保険、資産運用分野などの幅広いニーズに応える商品やサービスを提供する**世界最大級**の保険・資産運用グループです。
- ✓ アクサ・インベストメント・マネージャーズは、資産運用残高**7,566億ユーロ**を有し、世界に**20拠点**を展開しています。

(2019年6月末現在)



### アクサ・インベストメント・マネージャーズの運用概要 (2019年6月末現在)



Investment  
Managers

#### 株式運用

- 企業のファンダメンタルズに基づくアクティブ運用
- 主に、ジャッジメンタル運用とシステムティック運用の2チーム
- 運用残高：711億ユーロ（約9兆円）\*

#### 株式運用チームについて

#### 株式運用の陣容

- ✓ 運用プロフェッショナル：111名
- ✓ 投資経験平均年数：約19年
- ✓ グローバルに広がる運用体制
- ✓ 世界約2万社の企業データをカバー
- ✓ 40年以上のデータ分析
- ✓ 優れた独自の企業調査能力

#### 当ファンドの担当チームおよび特徴

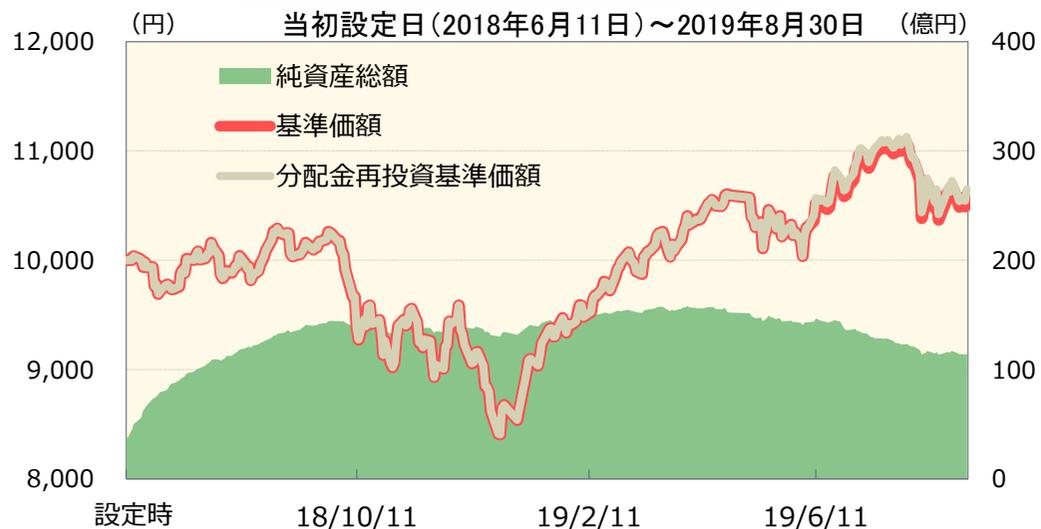
- ✓ 中小型株運用やテーマ型運用に定評のあるチームが当ファンドの運用を担当
- ✓ 徹底的な企業調査を行なうことで中長期的に平均を上回る成長が期待できる企業を発掘し、確信度に基づいて運用

※上記データは最新の情報に基づき作成していますが、後に変更される場合があります。  
\* 2019年6月末現在（為替レートは1ユーロ=122.69円）

(出所) アクサ IM

# ファンドの運用状況①

## 為替ヘッジあり



### 2019年8月30日現在

|       |          |
|-------|----------|
| 基準価額  | 10,598 円 |
| 純資産総額 | 114億円    |

| 分配の推移<br>(1万口当たり、税引前) |       |     |
|-----------------------|-------|-----|
| 第1期 (18/12)           |       | 0円  |
| 第2期 (19/06)           |       | 50円 |
| 分配金合計額                | 設定来 : | 50円 |

| 期間別騰落率 |         |
|--------|---------|
| 期間     | ファンド    |
| 1か月間   | -3.1 %  |
| 3か月間   | +3.8 %  |
| 6か月間   | +6.6 %  |
| 1年間    | +3.8 %  |
| 年初来    | +22.7 % |
| 設定来    | +6.5 %  |

## 為替ヘッジなし



### 2019年8月30日現在

|       |          |
|-------|----------|
| 基準価額  | 10,289 円 |
| 純資産総額 | 691億円    |

| 分配の推移<br>(1万口当たり、税引前) |       |     |
|-----------------------|-------|-----|
| 第1期 (18/12)           |       | 0円  |
| 第2期 (19/06)           |       | 50円 |
| 分配金合計額                | 設定来 : | 50円 |

| 期間別騰落率 |         |
|--------|---------|
| 期間     | ファンド    |
| 1か月間   | -5.2 %  |
| 3か月間   | +1.3 %  |
| 6か月間   | +2.4 %  |
| 1年間    | +0.5 %  |
| 年初来    | +18.7 % |
| 設定来    | +3.4 %  |

※「分配金再投資基準価額」は、分配金（税引前）を分配時にファンドへ再投資したものとみなして計算しています。※基準価額の計算において、実質的な運用管理費用（信託報酬）は控除しています（「ファンドの費用」をご覧ください）。※「期間別騰落率」の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間とし、当該ファンドの「分配金再投資基準価額」を用いた騰落率を表しています。※実際のファンドでは、課税条件によって投資者ごとの騰落率は異なります。また、換金時の費用・税金等は考慮していません。※分配金は、収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※裏表紙の「当資料のお取扱いにおけるご注意」をご覧ください。

# ■ ■ ■ ファンドの運用状況② (2019年8月末時点)

| 資産別構成 |     |        |
|-------|-----|--------|
| 資産    | 銘柄数 | 比率     |
| 外国株式  | 38  | 90.6%  |
| 日本株式  | 2   | 2.8%   |
| 現金等   |     | 6.6%   |
| 合計    | 40  | 100.0% |

| 株式 業種別構成       |  | 合計93.4% |
|----------------|--|---------|
| 業種名            |  | 比率      |
| 情報技術           |  | 50.3%   |
| 金融             |  | 33.3%   |
| 資本財・サービス       |  | 5.8%    |
| 一般消費財・サービス     |  | 2.6%    |
| コミュニケーション・サービス |  | 1.4%    |

| 株式 規模別構成 |  | 合計93.4% |
|----------|--|---------|
| 規模       |  | 比率      |
| 大型株      |  | 71.8%   |
| 中小型株     |  | 21.6%   |

※大型株：時価総額100億米ドル超、  
中小型株：時価総額100億米ドル以下

| 株式 通貨別構成   |  | 合計93.4% |
|------------|--|---------|
| 通貨名        |  | 比率      |
| 米ドル        |  | 60.7%   |
| ユーロ        |  | 12.4%   |
| 香港ドル       |  | 4.5%    |
| 英ポンド       |  | 4.1%    |
| ノルウェー・クローネ |  | 3.1%    |
| 日本円        |  | 2.8%    |
| シンガポール・ドル  |  | 2.6%    |
| 豪ドル        |  | 1.1%    |
| インドネシア・ルピア |  | 1.1%    |
| その他        |  | 1.0%    |

| 株式 国・地域別構成 |  | 合計93.4% |
|------------|--|---------|
| 国・地域名      |  | 比率      |
| アメリカ       |  | 51.1%   |
| ケイマン諸島     |  | 8.3%    |
| フランス       |  | 4.5%    |
| ドイツ        |  | 3.4%    |
| ノルウェー      |  | 3.1%    |
| 中国         |  | 3.1%    |
| 日本         |  | 2.8%    |
| ジャージー      |  | 2.7%    |
| イタリア       |  | 2.7%    |
| その他        |  | 11.7%   |

| 組入上位10銘柄                 |        |      |  | 合計39.7% |
|--------------------------|--------|------|--|---------|
| 銘柄名                      | 国・地域名  | 業種名  |  | 比率      |
| フィデリティナショナルインフォメーションサービス | アメリカ   | 情報技術 |  | 5.4%    |
| ペイパル・ホールディングス            | アメリカ   | 情報技術 |  | 5.2%    |
| グローバル・ペイメンツ              | アメリカ   | 情報技術 |  | 4.9%    |
| ビザ                       | アメリカ   | 情報技術 |  | 4.9%    |
| アリアンツ                    | ドイツ    | 金融   |  | 3.4%    |
| S & Pグローバル               | アメリカ   | 金融   |  | 3.4%    |
| Pageseguro Digital Ltd   | ケイマン諸島 | 情報技術 |  | 3.3%    |
| ワールドライン                  | フランス   | 情報技術 |  | 3.2%    |
| パロアルトネットワークス             | アメリカ   | 情報技術 |  | 3.1%    |
| アメリカン・エキスプレス             | アメリカ   | 金融   |  | 2.9%    |

※アクサIM・グローバル・フィンテック関連株式マザーファンドの運用状況です。※アクサ・インベストメント・マネージャーズが提供するデータ等を基に大和投資信託が作成したものです。※比率は、マザーファンドの純資産総額に対するものです。※上記データは、四捨五入の関係で合計の数値と一致しない場合があります。※業種名は、原則としてS&PとMSCI Inc.が共同で作成した世界産業分類基準（GICS）によるものです。※ジャージーは英王室直轄領で、税率が低いなどの税制優遇措置が設けられているため、本社や子会社を登記する企業が多い地域です。

※上記は過去の実績を示したものであり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。

当資料中のいかなる内容も将来の成果を示唆・保証するものではありません。

※裏表紙の「当資料のお取り扱いにおけるご注意」をご覧ください。

# (ご参考)フィンテックって、そもそも何？

テクノロジーで進化を遂げた お金にまつわる新しいサービス

Finance  
金融

×

Technology  
技術



家計管理



資産運用

FinTech  
フィンテック



融資

フィンテック (FinTech) とは、「ファイナンス」と「テクノロジー」を合わせた米国発の造語です。

ビッグデータの解析やAI (人工知能) の技術はここ数年でめざましい進歩を遂げましたが、

フィンテックはこうした技術を「お金のやりとり」に持ち込むことで、

身近なところから私たちの生活を変えようとしています。

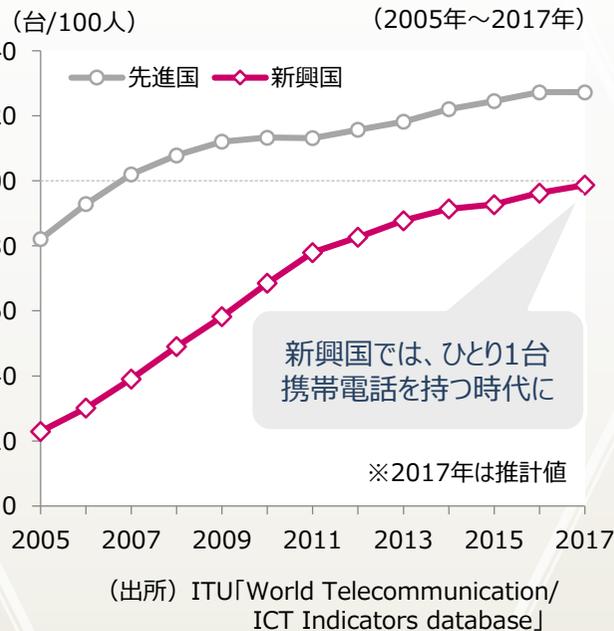


支払い

# (ご参考)なぜ伸びる？フィンテック ～止まらない新興国の勢い～

- ✓ フィンテックの拡大が期待されるのは先進国だけではありません。金融インフラは未整備ながらも、携帯電話（モバイル通信機器）はひとり1台保有するともいわれるほど普及している新興国では、スマートフォンなどを活用した決済や送金に対する需要が大きくなっています。
- ✓ このような状況は、フィンテックがこれから爆発的に拡大することを期待させます。

## 携帯電話の普及状況



## ケニア

多くの新興国特有の課題として挙げられる財政難。ケニアはより幅広い国民に国家財政を支えてもらうべく、携帯電話を通じた電子マネーのみで購入可能な国債を発行。

また、医療機関が少なく健康保険制度も未整備なケニアでは、電子マネーで医療費の貯金や融資を実現すると同時に遠隔医療サービスを提供するという解決策に踏み出した。



## 中国

キャッシュレス社会の最前線を走っている中国。2012年頃から個人モバイル決済サービスが拡大し、現在では国民の過半数が利用している。大都市での日常生活に現金は不要。

普及の背景には「偽札が多い」や「銀行が不便」という理由があるといわれているが、ATMは普及しており致命的に不便だった訳でもない模様。アリババの「Alipay」やテンセントの「WeChatPay」といった便利なモバイル・アプリが現れたことも大きい。

# フィンテック拡大余地を多大に秘める新興国 今後益々サービスの拡がり期待される

# ファンドの特色

## 1. 日本を含む世界のフィンテック関連企業の株式に投資します。

※株式にはDR（預託証券）を含みます。

## 2. 株式の運用はアクサ・インベストメント・マネージャーズが行ないます。

数多くのテーマ運用で豊富な実績を有するアクサ・インベストメント・マネージャーズは、世界最大級の保険・資産運用グループであるアクサ・グループの資産運用部門です。

## 3. 「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」の2つのファンドがあります。

### 為替ヘッジあり 為替変動リスクを低減するため、為替ヘッジを行ないます。

※ただし、為替変動リスクを完全に排除できるものではありません。

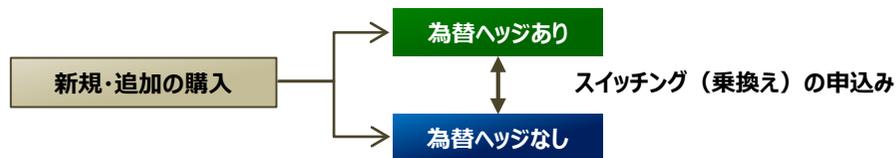
※為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。

(注) 一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行なわれない、または他の通貨による代替ヘッジを行なう場合があります。

### 為替ヘッジなし 為替変動リスクを回避するための為替ヘッジは原則として行ないません。

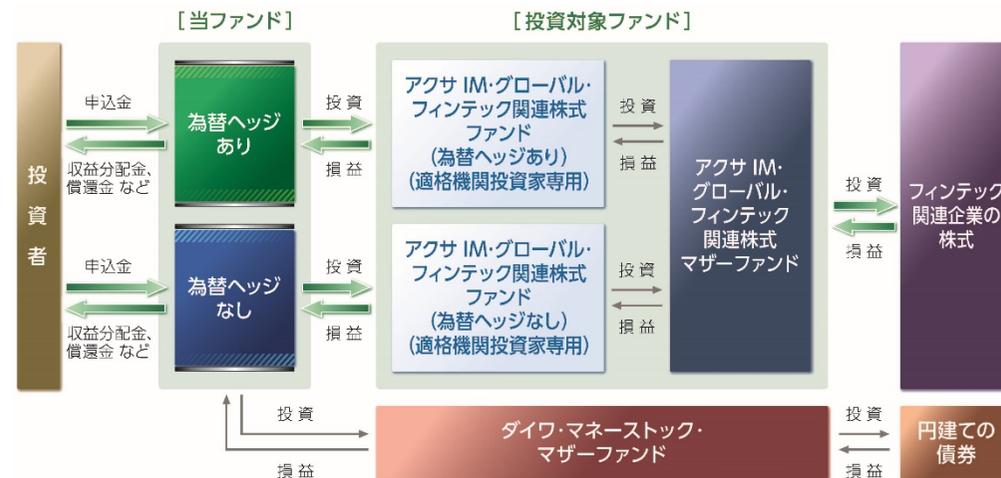
※基準価額は、為替変動の影響を直接受けます。

- 「為替ヘッジあり」と「為替ヘッジなし」との間でスイッチング（乗換え）を行なうことができます。



## 〈ファンドの仕組み〉

- 当ファンドは、複数の投資信託証券に投資する「ファンド・オブ・ファンズ」です。
- 投資対象とする投資信託証券への投資を通じて、フィンテック関連企業の株式に投資します。



## 〈投資対象ファンドについて〉

- ◆ アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり／為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）（以下「フィンテック関連株式ファンド」といいます）は、アクサ・インベストメント・マネージャーズが設定・運用を行ないます。
  - ◆ 株式の運用の指図に関する権限を、アクサ・インベストメント・マネージャーズ・パリに委託します。
- ※ アクサ・インベストメント・マネージャーズ・パリは、アクサ・インベストメント・マネージャーズのパリ拠点です。  
 ※ 投資対象ファンドについて、くわしくは、「投資信託説明書（交付目録見書）」の「投資対象ファンドの概要」をご参照ください。

- 「フィンテック関連株式ファンド」への投資割合を、通常の状態でも高位に維持することを基本とします。

大量の追加設定または解約が発生したとき、市況の急激な変化が予想されるとき、償還の準備に入ったとき等ならびに信託財産の規模によっては、上記の運用が行なわれないことがあります。

## 《分配について》

毎年6月10日および12月10日（休業日の場合、翌営業日）に決算を行ない、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。

### 分配方針

- ◆ 分配対象額は、経費控除後の配当等収益と売買益（評価益を含みます）等とします。
- ◆ 原則として、基準価額の水準等を勘案して分配金額を決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行なわないことがあります。

# 投資リスク

## 基準価額の変動要因

- 当ファンドは、値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は変動します。したがって、投資元本が保証されているものではなく、これを割込むことがあります。信託財産に生じた利益および損失は、すべて投資者に帰属します。
- 投資信託は預貯金とは異なります。

〈主な変動要因〉 ※基準価額の変動要因は、下記に限定されるものではありません。

|                          |   |
|--------------------------|---|
| 株価の変動<br>〔価格変動リスク・信用リスク〕 | 株価は、政治・経済情勢、発行企業の業績、市場の需給等を反映して変動します。発行企業が経営不安、倒産等に陥った場合には、投資資金が回収できなくなることもあります。組入銘柄の株価が下落した場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。<br>当ファンドは、特定の業種への投資比率が高くなるため、市場動向にかかわらず基準価額の変動が大きくなる可能性があります。<br>新興国の証券市場は、先進国の証券市場に比べ、一般に市場規模や取引量が小さく、流動性が低いことにより本来想定される投資価値とは乖離した価格水準で取引される場合もあるなど、価格の変動性が大きくなる傾向が考えられます。  |
| 為替変動リスク                  | 外貨建資産については、資産自体の価格変動のほか、当該外貨の円に対する為替レートの変動の影響を受けます。組入外貨建資産について、当該外貨の為替レートが円高方向に進んだ場合には、基準価額が下落する要因となり、投資元本を割込むことがあります。<br>特に、新興国の為替レートは短期間に大幅に変動することがあり、先進国と比較して、相対的に高い為替変動リスクがあります。<br>「為替ヘッジあり」は、為替ヘッジを行ないませんが、影響をすべて排除できるわけではありません。一部の通貨について、為替ヘッジが困難、あるいは、ヘッジコストが過大と判断される際には、為替ヘッジを行なわない、または他の通貨による代替ヘッジを行なう場合があるため、為替変動の影響を受けることがあります。なお、為替ヘッジを行なう際、日本円の金利が組入資産の通貨の金利より低いときには、金利差相当分がコストとなり、需給要因等によっては、さらにコストが拡大することもあります。<br>「為替ヘッジなし」は、為替ヘッジを行なわないので、基準価額は、為替レートの変動の影響を直接受けます。 |
| カントリー・リスク                | 投資対象国・地域において、政治・経済情勢の変化等により市場に混乱が生じた場合、または取引に対して新たな規制が設けられた場合には、基準価額が予想外に下落したり、方針に沿った運用が困難となることがあります。<br>新興国への投資には、先進国と比べて大きなカントリー・リスクが伴います。  |
| その他                      | 解約資金を手当てするため組入証券を売却する際、市場規模や市場動向によっては市場実勢を押下げ、当初期待される価格で売却できないこともあります。この場合、基準価額が下落する要因となります。  |

## その他の留意点

当ファンドのお取引に関しては、金融商品取引法第37条の6の規定（いわゆるクーリング・オフ）の適用はありません。

## リスクの管理体制

委託会社では、取締役会が決定した運用リスク管理に関する基本方針に基づき、運用本部から独立した部署および会議体が直接的または間接的に運用本部へのモニタリング・監視を通し、運用リスクの管理を行ないます。

# ファンドの費用

当ファンドのご購入時や運用期間中には以下の費用がかかります。(消費税率10%の場合)  
 ※くわしくは、「投資信託説明書(交付目論見書)」をご覧ください。  
 ※大和証券でお申込みの場合

## ◆お客さまが直接的に負担する費用

|           | 料率等  | 費用の内容                                  | 購入時手数料率     |          |
|-----------|--|--|-------------|----------|
|           |  |  | 購入金額        | 手数料率(税込) |
| 購入時手数料    | 購入金額に右記の購入時手数料率を乗じて得た額とします。<br>購入金額：(申込受付日の翌営業日の基準価額/1万口) × 購入口数 | 購入時の商品説明または商品情報の提供、投資情報の提供、取引執行等の対価です。 | 1億円未満       | 3.30%    |
| 信託財産留保額   | ありません。   | —                                      | 1億円以上5億円未満  | 1.65%    |
| スイッチング手数料 | ありません。   | —                                      | 5億円以上10億円未満 | 1.10%    |
|           |  |  | 10億円以上      | 0.55%    |

## (ご参考)

| 口数指定で購入する場合  | 金額指定で購入する場合  |
|--|--|
| 例えば、基準価額10,000円の時に100万口ご購入いただく場合は、次のように計算します。<br>購入金額 = (10,000円/1万口) × 100万口 = 100万円<br>購入時手数料 = 購入金額(100万円) × 3.30%(税込) = 33,000円となり、<br>購入金額に購入時手数料を加えた合計額103万3,000円をお支払いいただくこととなります。 | 購入金額に購入時手数料を加えた合計額が指定金額(お支払いいただく金額)となるよう購入口数を計算します。<br>例えば、100万円の金額指定で購入する場合、指定金額の100万円の中から購入時手数料(税込)をいただきますので、100万円全額が当該投資信託の購入金額とはなりません。 |

※購入時手数料について、くわしくは販売会社にお問合わせください。

## ◆お客さまが信託財産で間接的に負担する費用

|                | 料率等   | 費用の内容   |
|----------------|---|---|
| 運用管理費用(信託報酬)   | 年率1.232%(税込)  | 運用管理費用の総額は、毎日、信託財産の純資産総額に対して左記の率を乗じて得た額とします。運用管理費用は、毎計算期末または信託終了のときに信託財産中から支弁します。 |
| 投資対象とする投資信託証券  | 年率0.5731%(税込)   | 投資対象ファンドにおける運用管理費用等です。  |
| 実質的に負担する運用管理費用 | 年率1.8051%(税込)程度   | —   |
| その他の費用・手数料     | 「その他の費用・手数料」については、運用状況等により変動するため、事前に料率、上限額等を示すことができません。 | 監査報酬、有価証券売買時の売買委託手数料、先物取引・オプション取引等に要する費用、資産を外国で保管する場合の費用等を信託財産でご負担いただきます。         |

※手数料等の合計額については、保有期間等に応じて異なりますので、表示することができません。

# お申込みメモ

(大和証券でお申込みの場合)

|                    |   |      |           |      |          |
|--------------------|---|------|-----------|------|----------|
| 購入単位               | 1,000円以上1円単位*または1,000口以上1口単位<br>*購入時手数料および購入時手数料に対する消費税等に相当する金額を含めて、上記単位でご購入いただけます。 ※ただしスイッチングの場合は、1口単位です。  |      |           |      |          |
| 購入・換金価額            | 購入および換金申込受付日の翌営業日の基準価額（1万口当たり）  |      |           |      |          |
| 換金代金               | 原則として換金申込受付日から起算して6営業日目からお支払いします。   |      |           |      |          |
| 申込受付中止日            | ニューヨーク証券取引所、ロンドン証券取引所、ニューヨークの銀行またはロンドンの銀行のいずれかの休業日<br>(注) 申込受付中止日は、販売会社または委託会社にお問合わせください。   |      |           |      |          |
| 申込締切時間             | 午後3時まで（販売会社所定の事務手続きが完了したもの）   |      |           |      |          |
| 換金制限               | 信託財産の資金管理を円滑に行なうために大口の換金申込みには制限があります。   |      |           |      |          |
| 購入・換金申込受付の中止および取消し | 金融商品取引所等における取引の停止、外国為替取引の停止その他やむを得ない事情（投資対象国における非常事態による市場の閉鎖または流動性の極端な減少ならびに資金の受渡しに関する障害等）が発生した場合には、購入、換金の申込みの受け付けを中止すること、すでに受付けた購入の申込みを取消すことがあります。   |      |           |      |          |
| 信託期間               | 2023年6月9日まで（2018年6月11日当初設定）<br>受益者に有利であると認めるときは、受託会社と合意のうえ、信託期間を延長できます。   |      |           |      |          |
| 繰上償還               | 「為替ヘッジあり」が主要投資対象とする「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジあり）（適格機関投資家専用）」が存続しないこととなる場合または「為替ヘッジなし」が主要投資対象とする「アクサ IM・グローバル・フィンテック関連株式ファンド（為替ヘッジなし）（適格機関投資家専用）」が存続しないこととなる場合には、受託会社と合意のうえ、各ファンドの信託契約を解約し、信託を終了（繰上償還）させます。<br>次のいずれかの場合には、委託会社は、事前に受益者の意向を確認し、受託会社と合意のうえ、信託契約を解約し、繰上償還ができます。<br>・受益権の口数が30億口を下回るようになった場合<br>・信託契約を解約することが受益者のために有利であると認めるとき<br>・やむを得ない事情が発生したとき |      |           |      |          |
| 決算日                | 毎年6月10日および12月10日（休業日の場合、翌営業日）   |      |           |      |          |
| 収益分配               | 年2回、収益分配方針に基づいて収益の分配を行ないます。<br>(注) 当ファンドには、「分配金再投資コース」と「分配金支払いコース」があります。<br>「分配金再投資コース」をご利用の場合：収益分配金は、税金を差引いた後、無手数料で自動的に再投資されます。<br>「分配金支払いコース」をご利用の場合：収益分配金は、税金を差引いた後、原則として決算日から起算して5営業日までにお支払いします。  |      |           |      |          |
| 課税関係               | 課税上は株式投資信託として取扱われます。配当控除、益金不算入制度の適用はありません。公募株式投資信託は税法上、少額投資非課税制度の適用対象です。なお、当ファンドの非課税口座における取扱いは販売会社により異なる場合がありますので、くわしくは、販売会社にお問合わせください。<br>※税法が改正された場合等には変更される場合があります。  |      |           |      |          |
| 委託会社               | 大和証券投資信託委託株式会社  | 受託会社 | 株式会社りそな銀行 | 販売会社 | 大和証券株式会社 |

# 大和投資信託

Daiwa Asset Management

## 当資料のお取扱いにおけるご注意

- 当資料は大和証券投資信託委託株式会社が作成した販売用資料です。お申込みにあたっては、販売会社よりお渡する「投資信託説明書（交付目論見書）」の内容を必ずご確認のうえ、ご自身でご判断ください。
- 投資信託は値動きのある有価証券等に投資しますので、基準価額は大きく変動します。したがって、投資元本が保証されているものではありません。信託財産に生じた利益および損失はすべて投資者に帰属します。投資信託は預貯金とは異なります。
- 投資信託は預金や保険契約とは異なり、預金保険機構・保険契約者保護機構の保護の対象ではありません。証券会社以外でご購入いただいた投資信託は投資者保護基金の対象ではありません。
- 当資料は信頼できると考えられる情報源から作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。運用実績などの記載内容は過去の実績であり、将来の成果を示唆・保証するものではありません。記載する指数・統計資料等の知的所有権、その他一切の権利はその発行者および許諾者に帰属します。また、税金、手数料等を考慮しておりませんので、投資者の皆さまの実質的な投資成果を示すものではありません。記載内容は資料作成時点のものであり、予告なく変更されることがあります。
- 分配金額は収益分配方針に基づいて委託会社が決定します。あらかじめ一定の額の分配をお約束するものではありません。分配金が支払われない場合もあります。
- 当資料でご紹介した企業はあくまでも参考のために掲載したものであり、個別企業の推奨を目的とするものではありません。また、ファンドに組入れることを示唆・保証するものではありません。